

校友会 会報



巻頭言

「大震災からの復興に向かって」、ともに歩む

山形大学校友会副会長 結城 経治
(社団法人米沢工業会理事長)



山形大学は、元々4つに分散した学部の子立ちであるため、これまで学部毎の後援会や同窓会等が独自の活動を展開し運営しており、その意味では学部間の交流は少なく多くのチャンスを逃してきたとも言えます。

幸い多くの皆様のご支援とご理解を得て平成18年12月に「山形大学校友会(以下「校友会」という。)」が設置され6年余りが経過し、改めてその意義や使命を見つめ直す良い機会であると思います。

本学学生の構成をみますと、最近では県内出身者が3割で7割程度が県外で占められ、新制大学となつてからの64年間には、数多くの卒業生を輩出し全国各地域で活躍されています。現在、学部間の交流を広げ、少しでも学生諸君や教職員間の連携を深める機会をできるだけ多くしようと検討を進める中で、もっと校友会を活用しその輪を広げてもらいたいと願っています。

現代社会は完璧なほど情報化社会となり、お互いの情報をより速くそしてより広く手に入れる必要性に迫られています。青春時代に種智を戴き社会に貢献できることは、恵まれた環境にあったことと大いに感謝する一方で、これから新たな進路で活躍するためには、人と人との情報網をいかに創り上げるかが最も大切になってくると確信しています。

校友会は学内だけの範囲から視野を広げ、卒業生等を含めた一般社会との連携へと深化し、情報の得やすい環境創りに手助けができるようにしようと思っております。そのためには、会員加入者数の増加を図り、現在の学生主体から本学の教職員、諸先輩や一般の方々までも含め、いわば『オール山大応援団』の一員として参加を求めて行く必要があると考えており、引き続きご支援とご理解をお願い申し上げます。

そのため、各学部の後援会や同窓会におかれても校友会の趣旨にご賛同をいただき、これまで以上に諸先輩方々のご理解の下、本会への入会を勧めていただければ幸いです。

昨年の震災とその後の処理、デフレ経済のグローバル化と政治的な混乱などが社会不安を引き起し若い人達にはとても厳しい環境かも知れませんが、新たな社会を創り出す絶好の機会でもあると捕らえ、これからも挑戦し続けて欲しいものと切に願うものです。

山形の地域にある山形大学から発信する情報の輪がさらに広がることは、先輩方々の活躍にも直結するものであり、引いては「山形のリーダー」として山形大学の存在感をますます発揮してくれるものと期待しています。

山形大学校友会について

山形大学校友会は、山形大学の学生、卒業生、役員、教職員(退職者を含む)及び本会の趣旨に賛同いただいた方々等が相互の連帯感を強め、学生の学業及び課外活動等学生生活の全学的な活動に支援を行い、健全な成長と分散キャンパスの一体感の醸成活動を援助するための組織として、平成18年12月に設立されました。

以下に、平成23年度に校友会により支援を受けた各事業に参加した学生の声を掲載します。

海外留学への支援

大学間交流協定大学への短期派遣留学

人文学部(3年) 佐藤 修平 さん

留学先：アメリカ・コロラド州立大学 期間：2011年8月～2012年5月

私は去年の8月から今年の5月までアメリカ合衆国、コロラド州立大学に交換留学生として留学しました。約1年の期間でしたが、毎日が新しい出会いであり、とても充実して時間が短く感じました。

私は英語の語学留学と専攻でもある経営学を学びたいという動機で留学を決意しました。私が通っていた語学学校はアメリカの大学に進学を目指す人のための学校だったため内容もかなり難しく、量も膨大でしたが、そのおかげで英語力も留学前と比較するとかなり伸びました。また、経営学も講義の中で現地の学生との討論を通して知識も増え、実践的能力も向上しました。しかし、それら勉強に関すること以上に、現地で知り合った友達との何気ない会話から学ぶことが私にとっては興味深く、素晴らしく感じました。

例えば、文化の相違があること、価値観に大きな隔たりあること。今までの私の人生で出会ったことのない考え方や180度違う観点から物事をみる視点を持っている友達と出会うことで、良い意味で、私の考え方が壊されて、以前よりも人に文化に対して、より柔軟にそれらを受入れられるようになりました。

また、特に印象的だったのは、ミャンマーからの友達に言われたこの一言。

「People don't want to know how fluently you can speak



前列左端が筆者



ハロウィン
パーティーにて

English but, they want to know what you think.」その友達からすれば、うまく言語を操れることにこしたことはないが、それよりも、自分自身の意見をしっかり持ち、伝えようと試みることのほうが重要だということです。一見すると、当たり前聞こえるかもしれませんが、私にはとても新鮮に心に響きました。

「世界は自分が思っている以上に広く、色々な人がいて、これからの時代、世界の人々が『競争』ではなく『協力』していかなければならない。」と今回の留学生活を通して強く感じました。

最後に、山形大学校友会様の留学ご支援がなければ、私の今回の留学は成り立っていませんでした。ご支援ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

成績優秀者への留学支援

医学部(2年) 阿部 尚美 さん

留学先：アメリカ 期間：2012年3月11日～3月25日

Reading, Listening, Writing...この3つはまあまあ。でもSpeakingは全くだめ。…確かにTOEICはとれたかもしれない。でもこんなんでいいのだろうか? そう思った私はアメリカのボストンに二週間行ってきました。

語学学校に入ってからすぐ、私は衝撃を受けました。とにかくついていけない。テーマが与えられるとすぐにみんなべらべらしゃべりだす。あれ? おかしいな...事前テストでは同じレベルのはずなのに。うん、一年の後期でやった「遺伝子解析学」の内容だな...けど私は...英語が全く出てこない!

二週間ですることを考えた挙句、私は「ゆっくりでもいいからとにかく話す!」ことを目標にしました。ところが、私は見知らぬ外国の人に話しかけることがなかなかできませんでした。そんなとき、日本人の方々が、「こんなときはこういう表現!」「まず中国、韓国の子たちと話そう! 発音聞き取りやすいから」などとアドバイスをくれ、私に外国人の友達を紹介してくれました。そしてある程度会話を練習した後、私はとうとう勇気を出して授業が一緒の中国人の女の子に話しかけました。彼女は私の



中央右側が筆者



MITから見たボストン市街地

レベルを察し、簡単な単語でゆっくりと話してくれました。会話に慣れた頃には、「ルームメイトに対する不満」などを彼女にぶちまけられるようになりました(笑)

前半は時差ボケに加え、ルームメイトの安眠妨害(毎夜毎夜部屋でダンスパーティー...)により、ろくに眠れず、週末にダウンするなど大変でしたが、後半は友達も増えたり、ハーバードやMITを見に行ったりと充実していました。ハーバード近くのレストランに一人で乗り込んだ際、うまく注文できなくて困っていたところを何と地元の常連さんが助けてくれました!そしてそのまま一緒にディナーを楽しみました。一生この思い出は忘れられません。

私はこの大学(校友会)の事業がなければ外国に行こうとは思わなかったでしょう。他県にすらろくに出なかった人間だったので世界が広がりました。本当にありがとうございました。

課外活動への支援

医学部サッカー部

山形大学医学部サッカー部は、プレイヤー28名、マネージャー17名で週5日練習に取り組んでいます。監督やコーチはいないので、毎回の練習内容をプレイヤー自身で考え、実践しています。今年は個々の力を重視し、それを伸ばすための練習を数多く取り入れ、実習で毎回の練習に全員がそろうことが難しい中、効率的に練習をしています。また土日は全員がそろうので練習試合などを積極的に行ってチーム全体の力も上がるように取り組んでいます。

昨年の成績は、北日本医科歯科学学生体育大会で優勝、山形県サッカー総合選手権大会初出場初優勝し天皇杯全日本サッカー選手権に山形県代表として出場、東北地区大学サッカーリーグの2部優勝、1部昇格を果たすことができました。今年



はさらに東日本医科歯科学学生総合体育大会でも優勝を果たすため、常に「挑戦者」という気持ちを忘れず、勝つために日頃から万全の準備をして、試合では驕らず、怯まず、はつらつとプレイしていきたいと思っています。(医学部4年 阪本達さん)

工学部人力飛行機

山形大学人力飛行機研究会 Craft-Palは部員20名という少人数で活動しています。活動内容は人力飛行機の製作がメインですが、地域の行事やイベントにも積極的に参加しています。現在は来年の出場に向けての機体を製作しています。

去年7月、5年ぶりに「鳥人間コンテスト」に出場しました。出場した機体は、「アルソミトラ」という無尾翼機です。記録は30.46mと悔いが残る結果で終わりましたが、大きな経験を得ることができました。今回の反省点を踏まえ来年の大会出場に向けて頑張っていきたいと思います。(工学部3年 田中昴さん)



大学祭

昨年度の大学祭は、10月8日～10日に吾妻祭(米沢)、15日～16日に鶴寿祭(鶴岡)、22日～23日に八峰祭(小白川)が開催されました。日程によっては雨天に見舞われたものの、どのキャンパスでも多くの参加者にお起こしいただき盛大にされました。

前年度に続き、各キャンパスの実行委員が統一した課題を話し合い、キャンパス間のバスを運行し他キャンパスの大学祭に参加する等、全学的に行事を開催することにより、大学としての一体感を高めることができましたと思います。新たに実施したキャンパス合同企画では各大学祭で牛串販売を行い、学部を超えた学生間の交流がより深いものとなりました。

これらの大学祭が無事に成功したのも運営にかかわった実行委員だけでなく大学職員や校友会の方、協力企業の方々、そして参加していただいた全ての方々のご支援があつてのことと思います。



平成24年度の大学祭は、10月6日～8日に吾妻祭、20日～21日に八峰祭、11月24日～25日に鶴寿祭が開催される予定となっており、より質の高い大学祭を運営すべく各キャンパスにて実行委員が始動し始めているようです。

ありがとうございました。
(第45回八峰祭実行委員会委員長 高橋秀明さん)

山形大学雪合戦大会

企画・立案から大会直前まで綱渡りの状況の中、準備を進めてきましたが、2月11日の当日は最大の懸念事項であった天候も大きく崩れることなく、3キャンパスから計22チーム、延べ180人が参加して無事、大会を開催することができました。

当日、参加者からは皆いきいきとした表情で、充実感に満ちた感想をいただき、観客からは試合の様子を見て自分も参加してみたくなったとの声もありました。決勝トーナメントは特にスピードと迫力のある試合展開となりましたが、豪華賞品が提供されることもあってか、3位決定戦も例年になく気合い溢れる試合となり、観客からも歓声が上がっていました。

運営面でも特段目立ったトラブルはなく、今年度初めて行った温かい芋煮汁の提供も好評で、大会は成功に至ったと



思います。

今後もノウハウのスムーズな引き継ぎや実行委員の人数を増やす等、一層の基礎固めを図った上で、学内はもとより外部へのPRも強化し、大学ひいては「米沢の風物詩」としても認識・定着してもらえるようにしていきたいと考えています。

就職活動への支援

学生中心に行う首都圏での企業訪問

私は「周りが行っているから自分もやらなきゃ」という意識でセミナーに参加していました。就職とは何か、働くこととは何か、就職活動の大変さについて考えもしませんでした。人気企業訪問では、就職への意識が高い学生、先輩学生、採用担当者と話すことができると聞き、就職活動に対する意識を変えたいと思い申し込みました。企業への電話連絡やメールなどのマナーと実務的なものから、実際の就職活動で必要な事を学べました。企業のセミナーや学内セミナー、就活本と様々ありますが、就職活動は一人一人スタイルが異なります。これは選考が進んでいくほど確立していくので、学生が主体的に取り組む活動のおかげで早くに気付くことができ参加してよかったと思います。(人文学部4年 今田雄貴さん)



「業界研究セミナー」並びに「OB・OGフォーラム」

企業の情報を得る手段として有効といわれる「OB・OG訪問」。訪問にはなかなか踏み切れませんでした。私と先輩との都合が合わない、どの業界・企業の先輩に話を聞か決めきれないなどの問題があったからです。

その問題をカバーできるのが、OB・OGフォーラムでした。多くの先輩方から仕事に対する思いや当時の就職活動の経験談をお聞きました。得た情報は、通常の企業説明会で聞くものよりもはるかに役立ちました。

このイベントは、理想の情報収集の場であり、自分にとって必要な情報を自分で得ていくきっかけにもなりました。このイベントが恒例行事となることを願い、今度は私が先輩として後輩の皆さんの就職活動に貢献したいです。(人文学部4年 藤井裕子さん)



大学・社会活動への支援

東日本大震災復興支援ボランティア派遣事業支援

私たちは、宮城県塩釜市浦戸諸島桂島で観光再生ツアー及び住民交流会を実施させて頂きました。桂島は、東日本大震災で大きな被害を受けた離島です。私たちは、2011年6月から継続して復興支援活動をさせて頂いていますが、島民のみなさんとの心の距離が近づいていくうちに「観光を復活させたい」という思いをお聞きし、2011年11月から「被災地」を売りにならない、島自体の魅力を発信する観光再生ツアーを、島のみなさんと学生自身で企画し、山形の旅行代理店さんの協力を得ながら、運営してきました。

2月に実施した第3回ツアーでは、仮設住宅の一角をお借りし、山形県内の障がい者就労支援団体みちのく屋台こんにゃく道場さん、大曽根餅つき保存会さんらのご協力もいただき、山形

のそばや玉コンを作り、餅つきも行いました。「炊き出し」ではなく「住民交流会」という名称で島

のみなさんに広報し、仮設住宅のみなさんだけではなく、島のみなさんにお越し頂くことができました。お話する機会が少なかった島民のみなさんとも交流を深められ、非常に有意義な活動を行うことができました。この度は、山形大学校友会からのご支援を頂きまして、本当にありがとうございました。

(人文学部2年 桃井侯樹さん)



科学で山形盛り上げ隊

私たちは子供たちに科学の楽しさを知ってもらうため、県内を中心に科学イベントを行っています。昨年は震災の年ということもあり、被災地の避難所やショッピングモールで子供たちに楽しんでもらいながら科学について学んでいただきました。中でも原発の事故の影響によって子供たちがなかなか外で遊ぶことができない福島県相馬市にて行ったイベントでは、屋内で体験できるということもあり多くの子供たちに足を運んでいただけました。皆さんから「科学って面白い」「楽しい」という声や「また来てほしい」「今度は〇〇をやってほしい」という声をいただきイベントは大成功に終わることができました。(理学部2年 今田弘樹さん)



各同窓会の紹介

ふすま同窓会

ふすま同窓会の「ふすま」の由来は山形と秋田両県境に跨る名峰鳥海山に自生する高山植物チョウカイフスマによるもの。群生しているフスマの蕾ははまだ開花しない若き俊秀を象徴し、シンボルとして図案化され、旧制山形高校の校章として30年、ふすまを冠にして同窓会が高校から昭和24年山形大学発足後文理学部卒業生に引き継がれて60年余、ふすま同窓会は93年の歴史を重ねてきました。その間、学部改組などで文理学部が人文学部、理学部となりましたが、旧制の卒業生と新制大学卒業生の合体した類例のない同窓会として全国に知られています。

2万5千余人の会員を擁する同窓会は、年1回の同窓会報を全会員へ配布、ふすま通信を補完発行し、4年ごとの会員名簿発行事業を継続しながら、在学生の優秀論文に対し毎年のテーデマン・ふすま賞授与、卒業時の優秀学生への表彰など在校生への学術研究の向上に寄与しています。また、安達峰一郎全国中学生弁論大会、秋の八峰祭など学生イベント協力などにも支援してきました。また、昨年の東日本大震災に対してもいち早く両学部の被災学生の学費援助など実施しています。

同窓会は在学時や若年世代では無関係と思われ関心が示されませんが、小白川キャンパスで学んだ誼は年を経て、先輩後輩との繋がり、母校愛への高まりとなり、同窓生として誇りあえるものなのです。旧制、文理の卒業生からの物心両面の支えで今日に至っていますが、「ふすま同窓会100年」を迎えるにあたり新たな展開に迫られています。同窓会活動に学生会員の参加、OBの就活支援情報提供、同窓会保管資料の活用、会館の学生への開放など新たな同窓会活動として実現していきたいと考えています。

(会長 長沼龍平)



ふすま同窓会館 (山形市)



チョウカイフスマ

樹氷会

医学部看護学科同窓会「樹氷会」は、会員相互の親睦を図るとともに、会員と母校の発展ならびに看護学の向上に寄与することを目的として、1997年度に設立されました。本会は、正会員である卒業生、修了生、教員と、準会員である在生によって構成されています。会員数は2012年4月現在で約1200名であり、臨床現場の第一線で看護師・助産師・保健師として活動している会員や、教員として後輩を育成している会員、海外で活動している会員と幅広く活躍しています。

主な同窓会活動として、総会の開催、同窓会会報および会員名簿の発行、ホームページの運営、在校生の学習環境の向上支援などがあります。2009年度からは輪番で卒業担当期生が中心となって企画する交流会を開催し、会員同士や恩師と情報交換する場を設けております。また、2010年度からは卒業する優秀な学生への表彰や医学祭開催に対する寄付など、準会員への支援も積極的に行い、同窓会活動を学内外に向けて実施しております。

特に昨年度は東日本大震災の被災者支援のため、会員の安否および被災状況の情報収集、被災会員への支援、日本赤十字社に義捐金を寄付いたしました。今年度も引き続き、会員みなさまのご理解とご協力を得ながら支援活動を行ってまいります。

近年の少子高齢社会を背景に、保健・医療・福祉システムも様々

な問題を抱え、複雑化かつ多様化し、今まで以上に看護支援の質が問われる時代になっています。今後は同窓会の活動を通して、会員が大学と繋がることができるだけでなく、会員同士がコミュニケーションを取り合いながら看護の質の向上を支援できる環境作りに努めて参りたいと思います。また、看護学科と協働しながら、準会員である在学生の学業支援や就職に貢献できるよう努めて参ります。

これからも大学を卒業した頃の情熱と絆をいつまでも維持できるような組織を目指していきたいと考えておりますので、今後も看護学科同窓会をよろしく願いたします。(会長 小林淳子)

U R L <http://n-yu.jp/alumn/>

E-mail juhyokai@yahoo.co.jp



樹氷会交流会

山形大学OBセミナー

毎年恒例となっている山形大学 OBセミナーが、平成24年3月3日に山形大学東京サテライトを会場に開催され、校友会からは結城校友会副会長が出席しました。約100名の首都圏在住の同窓生に、本学の現状や校友会活動等の紹介があり、大場好弘山形大学有機エレクトロニクス研究センター長による講演も行われました。引き続き行われた交流会では、終始和やかな雰囲気の中、同窓生の皆様と本学関係者が交流を深めました。



大場センター長による講演
「世界における有機エレクトロニクスの現状と山形大学の戦略」



交流会

新入生保護者の皆様と山形大学との交流会

山形大学では、去る7月21日(土) 14時から小白川キャンパス 基盤教育2号館を会場に、「平成24年度 新入生保護者の皆さまと山形大学との交流会」を開催しました。

この交流会は新入生保護者相互、保護者と教職員との親睦や交流を深めるとともに、大学運営の実情や教育・研究等について理解を深めていただくため実施しているものです。

今年で4回目を迎えた交流会には、全国から180名あまりの新入生保護者の方々に参加をいただきました。

交流会は、地域教育文化学部音楽芸術コースの学生による「大学歌」と「学生歌」の斉唱に始まり、最初に、結城学長からあいさつがあり、本学は何よりも学生を大切に、学生中心の大学創りを基本理念としていることなど、力強いメッセージがありました。

引き続き、「1年次に学ぶ『基盤教育』が目指すもの」と題して基盤教育実施会議議長である須賀一好教授による講演があり、次いで、地域教育文化学部の伊東秀悟君、小川広暉君、工学の中川一貫君の3名の1年生学生による「現役山大新入生による基盤教育レポート!」の発表が行われました。

その後、「有機エレクトロニクスにおける世界一の研究拠点形成と産業集積化によるエネルギー課題解決への貢献」と題

して、山形大学有機エレクトロニクスセンター長である大場好弘教授による講演が行われました。

講演等の終了後には学生花笠サークル「四面楚歌」による花笠回しが披露され、ヤッショ、マカショのかけ声で会場は華やかな雰囲気になりました。

保護者の皆さまからいただいたアンケートでは、山形大学の教育、研究に対する取り組みについてご理解いただけたというご意見に加えて、学生による発表も好評で、御子息が入学された山形大学についての関心の高さが示されました。



新入生による発表

学生サークル「四面楚歌」による笠回し



短期派遣留学支援金贈呈式

7月24日に事務局第一会議室において、今年度、山形大学短期留学生派遣制度により海外の協定大学に留学する学生への支援金贈呈式を行いました。

贈呈式には、今年度の支援対象となる学生のうち7人が出席し、須賀一好山形大学校友会副会長より一人一人に目録が手渡された後、結城学長と須賀副会長から、派遣学生へ向けた激励の言葉をいただきました。

また、派遣学生一人一人から、支援に対する感謝の気持ちと留学にあたっての決意のこめられた挨拶が行われました。

皆さんの健康と留学が素晴らしい経験となることをお祈りいたします!



役員紹介 (平成24年7月1日現在)

役 職	氏 名	推薦部局等
会 長	相馬 健一	学長推薦
副会長	結城 経治	学長推薦
〃	須賀 一好	地域教育文化学部
理 事	新野 浩樹	人文学部後援会
〃	宇野 雄一	地域教育文化学部後援会
〃	渋谷 京子	理学部後援会
〃	伊藤 清明	医学部医学科後援会
〃	田中 孝真	医学部看護学科後援会
〃	上村 勲二	工学部後援会
〃	菅原 淳	農学部後援会
〃	長沼 龍平	ふすま同窓会(人文・理)
〃	酒井 順一	地域教育文化学部同窓会
〃	加藤 丈夫	蔵王会(医・医学科)

役 職	氏 名	推薦部局等
理 事	佐藤和佳子	樹氷会(医・看護学科)
〃	山崎洋一郎	社団法人米沢工業会(工)
〃	齋藤 博行	鶴窓会(農)
〃	小山 清人	山形大学 理事
〃	阿部 宏慈	人文学部
〃	佐藤 圓治	理学部
〃	山川 光徳	医学部
〃	神戸 士郎	工学部
〃	高橋 敏能	農学部
〃	斎藤 洋男	事務職員
監 事	丸山 俊明	
〃	塚原 初男	
顧 問	結城 章夫	山形大学長

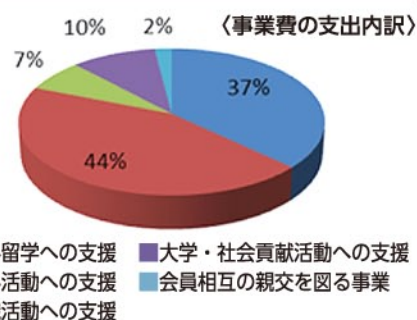
平成23年度収支報告 (単位:円)

1. 収入

区 分	決算額
会 費 収 入	18,680,000
雑 収 入	44,550
前年度からの繰越	36,220,094
合 計	54,944,644

2. 支出

区 分	決算額
事 業 費	18,123,938
運 営 費	605,695
次年度への繰越	36,215,011
合 計	54,944,644



平成23年度事業報告

〈海外留学への支援〉

- ①成績優秀な学生に対する留学支援
6学部45名の学生が10ヶ国(地域)へ。
- ②大学間交流協定大学への短期派遣留学生支援
学生18名が、アメリカ、韓国、中国、エストニア、イギリス、タイ、台湾の10大学に留学。

〈課外活動関係支援〉

- ③山形大学雪合戦大会支援
第三回大会を3キャンパスから22チームが参加して2月11日(土)に米沢キャンパスで開催。
- ④大学祭等への支援
小白川、米沢、鶴岡の各キャンパスの大学祭へ支援。
- ⑤公認サークルへの支援
・266団体に運営費を支援。
・全国大会出場の9団体に遠征費等を支援。

〈就職活動への支援〉

- ⑥学生中心に行う首都圏での企業訪問への支援
- ⑦「業界研究セミナー」並びに「OB・OGフォーラム」支援

〈大学・社会貢献活動への支援〉

- ⑧大学歌の普及活動への支援
- ⑨東日本大震災復興支援ボランティア派遣事業への支援
- ⑩科学で山形盛り上げ隊への支援

〈会員相互の親交・その他〉

- 会報(創刊号)の発行
- 「各同窓会及び校友会と山形大学との情報交換会」の開催
各同窓会会長、副会長及び山形大学学長、理事、各学部長等が出席し意見交換を行いました。
期日: 平成24年2月17日 場所: 山形グランドホテル

平成24年度事業計画

1. 理事会の開催

第12回: 平成24年6月19日
(議題): 平成23年度事業報告及び収支決算
平成24年度事業計画及び収支予算 等
(主な審議内容)

今年度の事業として次の14事業を決定しました。

- ①成績優秀な学生に対する留学支援
- ②大学間交流協定大学への短期派遣留学生支援
- ③山形大学雪合戦大会支援
- ④大学祭等への支援
- ⑤公認サークルへの支援
- ⑥学生中心に行う首都圏での企業訪問への支援
- ⑦「業界研究セミナー」並びに「OB・OGフォーラム」支援
- ⑧大学歌の普及活動支援
- ⑨東日本大震災復興支援ボランティア派遣事業支援
- ⑩科学で山形盛り上げ隊への支援
- ⑪山形大学野球大会への支援(新規事業)
- ⑫ビーチサッカー大会in庄内(新規事業)
平成24年10月13日(土)に鶴岡市由良海岸で第1回大会を開催します。
- ⑬首都圏開催合同企業説明会への参加と東京サテライト案内(新規事業)
- ⑭卒業生等による学生支援体制の整備(新規事業)
卒業生との情報交換を行い、「卒業生人材ネットワーク」の構築を目指します。

2. 会報(No.2)の発行

昨年に引き続き、会報(No.2)を9月に発行します。

3. 「各同窓会及び校友会と山形大学との情報交換会」の開催

期日: 平成25年2月15日 場所: 山形グランドホテル

山形大学校友会 入会の申し込み

本会の趣旨にご賛同のうえ、別紙「払込取扱票」へ必要事項をご記入いただき、「郵便振替」によりお振込みください。会費の納入により入会の申込みとさせていただきます。

1. 会 員:

- 次の各号のうち会費を納入した者及び本会の趣旨に賛同し寄附をした者
- (1) 本学の学生(保護者の場合を含む)
 - (2) 本学の卒業生
 - (3) 本学の役員及び教職員(退職者を含む)
 - (4) 前項以外の本学に関係する者

2. 会 費: 10,000円(生涯会費)

3. 払込方法:

別紙「払込取扱票」がお手元になければ、お手数ですが「校友会事務局」へご請求いただくか、郵便局に備え付けの「払込取扱票」をご利用ください。
なお、その際、次の記入例を参考に、必要事項をご記入ください。

(通信欄記入例)

卒業生の場合: ○年度卒業(修了)、○学部(大学院)
退職者の場合: 退職時の部局名
趣旨賛同者の場合: 趣旨賛同旨表示、個人、法人名

4. 払込時期:

入会申込みは、随時受け付けておりますが、新入生(学部、大学院共)については、入学手続き時に、諸会費の納入と合わせて行っております。

5. 振替口座(ゆうちょ銀行):

次の「山形大学校友会」名義の振替口座へお振込みください。
なお、専用の「払込取扱票」以外の場合は、振込手数料を別途ご負担願います。
口座番号: 02200-7-89697



今年も山形花笠まつりパレードに参加しました。

「大学祭」のご案内

山形大学校友会では今年も大学祭を支援します。各キャンパスで以下のとおり開催される予定です。

より質の高い大学祭を運営すべく各キャンパスにて実行委員が始動し始めているようですので、皆様、是非この機会に、ご友人をお誘い合わせの上、お越しください。

小白川キャンパス「八峰祭」

平成24年
10月20日(土)～21日(日)

米沢キャンパス「吾妻祭」

平成24年
10月6日(土)～8日(月)

鶴岡キャンパス「鶴寿祭」

平成24年
11月24日(土)～25日(日)

山形大学校友会では、校友会の紹介、入会案内のためのリーフレットを作成しています。
ホームページでもご覧になることができます。

http://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/annai_201203.pdf



山形大学大学歌

作詞：石先 麻美・難波 千鶴
作曲：大谷 靖夫
編曲：中村 康就

1 春風に 希望をのせて
桜の光 仰ぎ見る
若葉の緑 きらめいて
力みなぎる 若き瞳
決意を胸に 手をつなぐ
我らが学び舎 山形大学

山形大学大学歌は、平成21年に創立60周年を記念し、歌詞の募集を行い、当時地域教育文化学部4年在学中の石先麻美さんと難波千鶴さんの作品が選ばれました。作曲は山形市出身の作曲家大谷靖夫氏に依頼し、平成22年3月に本学大学歌として制定されました。

2 知を深く 真理を求め
語りあかそう 集い来て
星のまたたき 想い馳せ
学びを拓く 強き瞳
己を信じ 進みゆく
我らが学び舎 山形大学

3 はるかなる 未来を照らし
流る川の 絶え間なく
日々を彩る 雪模様
次代を担う 明き瞳
夢を抱いて はばたこう
我らが学び舎 山形大学



大学歌
ダウンロードは
こちら

大学のホームページからも
ダウンロードができます。



山形大学校友会では、事業の一環として、大学のイメージアップと4キャンパス一体感の醸成を目的として大学歌の普及活動に対しての支援を行っています。

山形大学エンrollment・マネジメント部
山形大学校友会事務局

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12
TEL: 023(628)4867 FAX: 023(628)4185
E-mail: ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〈校友会ホームページ〉 <http://www.yamagata-u.ac.jp/ykouyu/>